

造園技術の授業では現在、樹木の害虫について学習をしています。害虫と言っても昆虫類やダニ類、線虫類、甲殻類などが挙げられますが今回授業内でピックアップしたのはマツノザイセンチュウです。

マツノザイセンチュウとは、長さ1mm位の線虫で北アメリカから入ってきた生物です。この生物がマツの幹の中で増えてくると水の通り道をふさいでしまうため、マツの葉が急に赤くなって枯れてしまうのです。



校内にも同様な症状のマツが一本あり、原因を追究するため簡易的な抽出装置を作成し観察をしてみました♪

この装置(右図)は「ベールマン装置」と呼ばれており、土壤微生物を抽出する際用いる「ツルグレン装置」とは異なり、水がないと移動できない生き物を下に集めることができます。



ペットボトルで装置を作成し、試験体となるマツの枝を細かく刻みます。1日この状態で放置して沈殿するのを待ちます。



翌日…ペットボトルにのキャップ付近に空けておいた水抜き穴より、上澄みを排水し
いざ観察です!!

顕微鏡を用いて観察すると…(;’▽’)



※40倍で観察

写真では伝わりませんが、元気に動いている…!!気持ち悪い(/ω＼)

マツノザイセンチュウは自分で元気なマツの木まで飛んでいくことができません。
マツノザイセンチュウはマツノマダラカミキリをうまく利用して元気の良いマツにとり
つき、マツを枯らすほど数を増やしなが、また次のマツノマダラカミキリの体に乗
って次々に広がっていきます。



校内やこの地域での拡大を阻止するためにも何らかの対策が必要ですね。